

豊岡市基本構想イメージ

平成 30 年度～平成 41 年度 【12 年間】

第1章 基本構想の位置づけ

1 まちづくりの理念（長期的な目標）

～いのちへの共感に満ちたまちをつくる～

平成24年6月に制定した「いのちへの共感に満ちたまちづくり条例」で、まちづくりの理念を定めました。

この条例は、高度成長期の日本が利益や利便性を優先するあまり、自然や人、受け継いできた大切なものとの関係を絶ってきたことを反省し、コウノトリをシンボルとした環境を良くする取組みを通して、かつてのように、自然と人、人と人とがつながり合う暮らしを取り戻そうとすることを表しています。

そして、一つ一つのいのちが輝き、様々ないのちとつながり、そのつながりを次の世代に引き継いでいくことを、市が行う様々な取組みを通して実践していくこととしています。

このつながりが満ち溢れているまちを実現するため、「いのちへの共感に満ちたまちをつくる」こととし、長期的な目標として定めています。

2 長期的な目標の前に立ちはだかる大きな社会の変化

いのちへの共感に満ちたまちの実現を目指していくうえで、適応すべき課題や、克服すべき大きな課題が目の前に立ちはだかっています。

(1) 大規模災害の発生

頻発する地震や集中豪雨、土砂災害といった自然災害は、私たちの命と暮らしを脅かし、人間の生活や経済社会活動にも一因がある地球温暖化などの環境問題は、将来の豊かな自然と共生する暮らしを阻む問題です。

(2) 人工知能及びロボットの普及

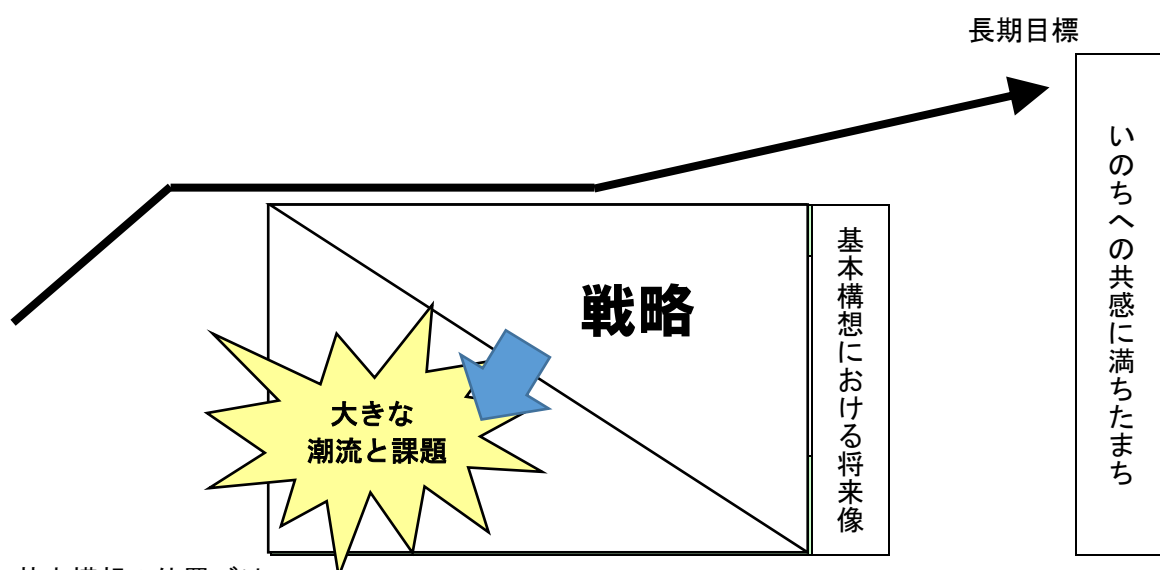
人工知能やロボットの普及などによって、利便性が向上する一方で、人間が担う仕事が減少するなどの産業構造の大転換への対応も課題です。

(3) グローバル化の進展

グローバル化の進展により、外国人観光客が急速に増加していることや、豊岡市に暮らす外国人への語学や生活への対応といった、自然や人、人と社会、人と人のつながりを阻む大きな障害が立ちはだかっています。

(4) 人口減少

中でも人口減少問題は、経済活動の縮小や地域活力の低下、まちそのものの存続に関わる最大の課題です。



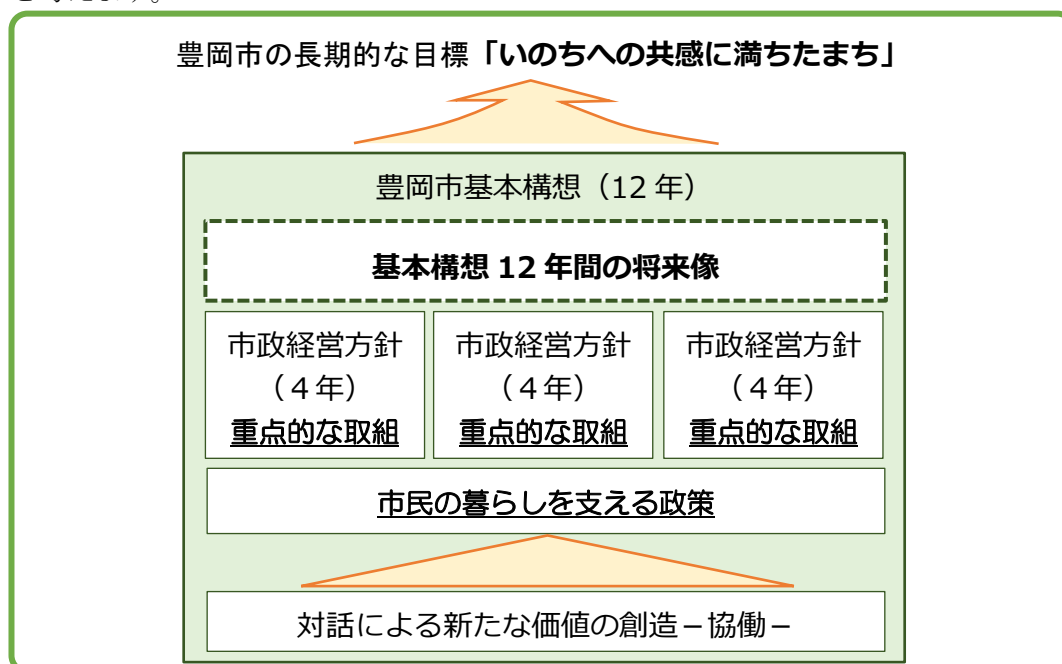
3 基本構想の位置づけ

まちづくりにとって圧倒的な破壊力を持つ人口減少に立ち向かい、難関を切り開いていくためには、有効な戦略を立て、覚悟を持って果敢に挑戦していくことが重要であると考えます。

そこで、長期的な目標の前に立ちはだかる課題を解決するため、基本構想 12 年間の将来像を設け、重点的な課題及び戦略的な取組みの方向を示すこととします。

豊岡市のような地方の小さなまちでも、世界から尊敬され尊重されるような、世界中のまちに引けをとらない取組みや、豊岡市固有の魅力ある資源がたくさんあります。

コウノトリをシンボルとした環境と経済が共鳴する取組み、木造三階建ての旅館を守り育ててきた城崎温泉街、城下町の古い街並みを守り、近畿に現存する最古の「出石永楽館」の復活を成し遂げた出石、豊岡市の湿地から生まれた柳行李に代表される鞆産業、今や世界中の一流アーティストが注目する城崎国際アートセンターなど、豊岡市固有の自然、歴史、伝統文化や匠の技、産業等を大切にし、守り育て、さらに磨くことで、世界で輝き、私たちの自信と誇りにつながるものと考えます。



第2章 めざすまちの将来像

人口減少社会において、持続可能なまちを実現するためには、地域固有の資源を活用しながら、急激な社会変化に対応していく好循環の仕組みをつくることが重要となります。

特に、グローバル化の進展に伴い、世界の都市が地域固有の文化的な魅力を失い、急速に ”同じ顔” となりつつあるなかで、 “ローカルであること” 、つまりその地域固有の自然、歴史、文化、産業等を磨くことが、世界で輝くチャンス “グローバルへつながる” ものと考えます。

本市は、このローカル&グローバルの考え方にに基づき、豊岡市ならではの自然、歴史、伝統文化や匠の技など、地域固有の財産を大切にし、守り育てることにより、世界で輝き、認められるまちとなるため、「小さな世界都市（Local&Global City）」を本基本構想（12 年間）の将来像として掲げます。

めざすまちの将来像

小さな世界都市 – Local & Global City –

地域固有の財産を磨くことで、世界で輝く

【審議会】

：世界とつながる、海外に認めてもらえるような都市

【高校生】

：私たちのふるさとを世界都市、可能性を広げるまち

第3章 まちづくりの基本姿勢

小さな世界都市を実現するための基本姿勢として、豊岡市の個性が輝くこと、その個性一つ一つが様々なものとつながり、新たな価値を生み出し、私たちに自信と誇りが持つことができるまちを目指します。そして、この多様なつながりのある社会を大切に、未来へ引き継いでいきます。

○豊岡らしさを磨く（個性）

これまで受け継いできた地域固有の自然、歴史、文化、産業などを大切にし、一層、磨きをかけることで、豊岡市の個性を世界で輝かせます。

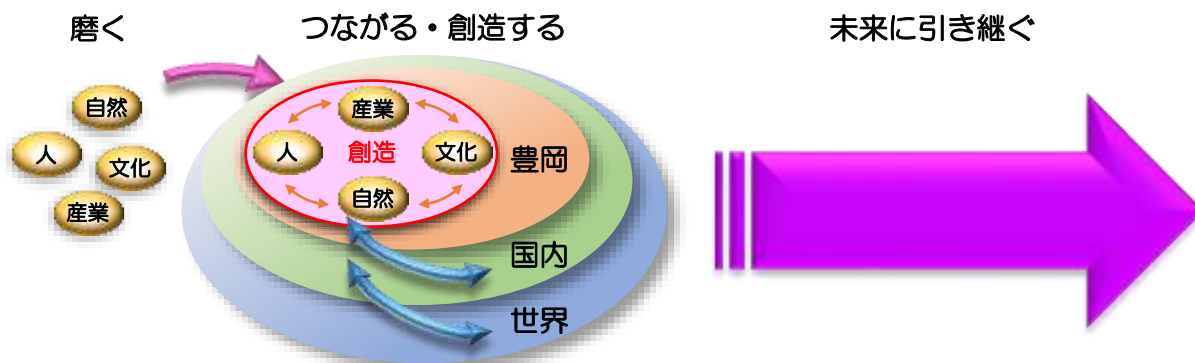
○多様な”つながり”から、新たな価値を生み出す（連携と創造）

自然と経済、経済と障害を持つ人、社会的弱者と文化芸術など、一つ一つの個性を多様なものと結びつき、これまでにない発想で新たな価値を創造し、国内や世界に発信していきます。

○豊岡らしさを磨き、多様なつながりのある社会を、未来に引き継ぐ（持続可能性）

過去から受け継いだ財産・資源を守り、育てることにより価値を高め、また新しい価値を生み出し、未来に引き継いでいきます。

<イメージ>



【審議会】

: つながる、豊岡らしさ

第4章 小さな世界都市の実現に向けた重点的な取組み

1 自然との共生を徹底する

(1) 大規模災害に備える

平成 23 年の東日本大震災、平成 28 年の熊本地震など、近年、大規模地震が相次いでおり、加えて、近い将来、南海トラフ地震や首都直下地震などの巨大地震の発生が予測されています。

また、深刻な被害をもたらす集中豪雨や土砂災害が増加傾向にあるなど、私たちのまちが世界でも稀に見る災害列島におかれていることを実感し、自然災害に対する危機意識を高めなければなりません。

私たちは、大正 14 年の北但大震災、平成 16 年の台風 23 号で市民の尊い命と、おだやかな暮らしを失いました。この教訓を基に、災害は必ず起きることをリアルに想定し、自助、共助、公助それぞれに限界があることを理解した上で、全員が力を合わせて、まち全体の災害対応能力を一層高めていきます。

【審議会】

：安心して命を守る生活ができる、災害時に備えた消防団員の確保、地域の防災力を高める、外国籍消防団員による観光地防災力向上、元気な高齢者を活かした防災教育

(2) コウノトリも棲める豊かな環境をつくる

私たちは、これまでの豊かな環境を取り戻すために、コウノトリをシンボルとして、一度は絶滅したコウノトリを空に帰す取組みを進めてきました。

環境経済戦略も進め、コウノトリが飛び交う風景を取り戻すことはできましたが、本当の意味での豊かな自然環境を取り戻すには、至っていません。

あらためて、豊かな自然を前提に私たちの社会があり、その上に経済があることを再確認し、私たちのライフスタイルの中に環境を良くする行動が溶け込んだものとなるよう、発展させ、人と自然との関係を取り戻す取組みを進めていきます。

【審議会】

：残したい自然と文化、自然条件を生かしたまち、豊岡らしい風景、自然と調和しているまち

【高校生WS】

：環境を生かした生活、コウノトリ事業の推進、自然とのふれあいで学ぶ

2 受け継いできたものを守り育て引き継ぐ

これまでの日本は、受け継いできた大切な自然を壊し、歴史や伝統を捨て去り、古い街並みを壊して、四角いコンクリートの建物ばかりの同じ顔をした街をつくってきました。同じ顔であるならば、資本力で大都市に絶対に勝つことはできません。私たちは、高さを競ったり、速さを競ったり、大きさを競う勝負をして大都市に勝てる訳がありません。別の道を歩む必要があります。受け継いできた地域固有の大切なものを守り、自分たちの新しい工夫を付け加えて次へと引き渡していくことが一つの道筋であると考えています。

私たちは、北但大震災で全てを失った城崎温泉街を木造三階建て建築を、近畿に現存する最古の芝居小屋「出石永楽館」を復活させ、今では、まちの観光資源として大きな魅力となり、国内外から多くの観光客が訪れています。

これを踏まえ、豊岡市が受け継いできた地域固有の価値を更に磨くとともに、他の価値とも連携しながら新しい価値を創造し、新たなまちの魅力として世界へ発信し、次の世代へ引き継いでいきます。

【審議会】

：残したい自然と文化、豊岡らしい風景、世界に目を向けた観光戦略、観光が経済を回し文化度を高める、市内の観光連携、観光を含めた産業活性化と定住促進

【高校生WS】

・豊かな食資源や観光資源の活用、観光業の促進、若者が興味を持つ観光業、情報発信

3 芸術文化を創造する

豊岡市には、世界を代表するアーティストが集う芸術文化の創造拠点「城崎国際アートセンター」があります。

かつての城崎では、作家などの創作活動を支える風土があり、「城崎にて」という名作が誕生したように、今もまた、世界中のアーティストが東京ではなく、城崎の伝統的な街並みに惹かれて活動するようになってきました。

また、市民とともに舞台芸術を創り上げる活動が街に変化を起こし、情報が発信され、人を呼び込むという好循環をもたらしています。

日々の暮らしの中に、世界的な芸術や音楽をともに創り楽しむことができれば、大都市にはない、豊岡市の新たな豊かさを世界に発信できるものと考えます。

これからのまちづくりの中で、市民の心の豊かさと、豊岡市の魅力を高めるために、芸術文化を創造するまちづくりを進めていきます。

【審議会】

：色々な可能性が楽しめるまちづくり、若い人が住みたい特色を全国にアピール、芸術を通した人生の選択肢提供

4 内発型地域経済の活性化

(1) 環境と経済の共鳴

豊岡市が新たに開きつつある扉は、環境経済戦略です。環境と経済は相入れないと固く信じられていました。しかし、環境を良くする行動によって経済が活性化する。そのことが誘因となって環境を良くする行動がさらに広がると信じています。

環境と経済が共鳴する取組みを進めるために、経済によって裏打ちされた「持続可能性」、環境経済による「地域の自立」、環境を良くする行動による地域の「誇り」を、取り組みのエネルギーとして、経済成長と環境保全の両立に挑戦していきます。

(2) 地域内の経済循環を高める

近年、地域経済を「庭」、地元の中小企業を「植物」に見立て、地域という土壌を生かして地元の中小企業を大切に育てることにより地域経済を活性化させるエコノミックガーデニングという取組みが注目を集めています。

豊岡市では、まち全体のブランド力を向上するとともに、地域内の産業を活性化するため、プロジェクトの一端を担うような産業間の連携を強化する仕組みづくりを進めています。

また、豊岡市の基盤産業である鞆産業や飲食業・宿泊業は、売り上げによる他の業種への波及効果が高いことから、農林水産資源や材料などの活用が期待されます。

(3) 地場のものを高付加価値化する

2016年、コウノトリ育むお米が、日本最大の食味鑑定コンクールで日本一に輝きました。

コウノトリ育む農法という技術体系を確立させ、この農法に取り組んできた人たちのたゆまない努力によるものです。

高付加価値のブランド米としても高い評価を受けているコウノトリ育むお米は、国内はもとより、世界に向けて販路を拡大しようとしています。

豊岡市は、城崎温泉をはじめ城下町出石、玄武洞などの観光資源や、豊かな農林水産資源、特色ある産業や技術があり、大きな経済的可能性を有しています。

地域内の経済循環とあわせ、世界に通用するよう産業の高付加価値化を進めて行きます。

【審議会】

: 資源をうまく市場に乗せる工夫、観光が経済を回し文化度を高める、
観光アクティビティと宿との連携、市内の観光連携、観光を含めた産業活性化と定住促進、
みんながある程度稼げる仕組み、鞆、宿泊業以外にも全体的な発展、地域通貨の域内循環

【市民アンケート】

: 雇用対策の推進

5 多様性を受け入れる社会をつくる

ユニバーサル社会をつくること、国籍や文化、性的少数者や障害の有無に関わらず、社会的弱者が標準となる社会をつくることによって、すべての人が暮らしやすいまちになります。

経済活動では、平均的なニーズに合わせていた商品開発を、障害者の基準を合わせることに
よって、すべての人に使いやすいヒット商品を生み出したという事例もあり、固定観念にと
られない新たな発想を生み出し、豊岡市の価値へとつながる可能性もあります。

私たちは、視点を多様な方向から見ることによって、豊岡市では、環境と適合したライフ
スタイルや、アートによる心の豊かさを満たす暮らしができることなどが強みとなっています。

観光においては、国内だけではなく、インバウンドとして海外からも様々な国から観光客
が訪れていることや、在留外国人も増加していることから、異なる文化や習慣への理解が大
切となっています。このようなことから、多様性を受け入れ、刺激し合うことによって、ひ
いては社会の活力につながるものと考えます。

私たちは、それぞれの個人の価値観を尊重しながら、積極的につながり、互いに受け入れ
られるような社会をつくっていきます。

【審議会】

：外国籍の親子への情報提供や支援、格差のないまち、芸術などの能力にたけた障害者活用、
多文化共生によるまちの活性化、

【高校生WS】

：オープンなまち、多様な交流が生まれるまち

6 挑戦する人材を育てる

将来の豊岡市を支えていくのは、このまちに住む子どもたちです。

私たちは、次の世代にまちを引き継いでいくため、子どもたちが健やかに育ち、ふるさと
を愛し、誇りに思う心を育みながら、地域の担い手として活躍できる仕組みをつくります。

ふるさと教育、英語教育、コミュニケーション教育の三つを柱とするローカル&グローバ
ル学習を実践し、自分のまちに誇りをもちながら、英語を使って世界中の人々に自分を表現
し、コミュニケーションができる子どもたちを育てます。

また、人工知能やロボット化などの技術革新が進むと、雇用が脅かされる一方で、例えば、
人の心を癒したり、おもてなしや伝統工芸などの分野は、人が引き続き担う分野として残る
と言われており、豊岡市の産業を担う人材を育てていくことが重要です。

豊岡市の魅力を更に輝かせるためには、私たちの力では困難な場合があります。

知識や技術、センスや個性、ネットワーク等、特有の能力を持った豊岡市以外の人とも結
び付き、豊岡市の魅力を高める取り組みを支える「人財」を育てます。

【審議会】

：ふるさとを大切に思う心を育む、まちづくりに子どもを参加、教育環境の向上、
生きる力を学ぶ教育、語学力を高める、ふるさと・英語教育による世界に通じる人材育成

【高校生WS】

：豊岡市全体に関連した学習（郷土愛の醸成）、昔の文化を学ぶ

第5章 まちづくりの進め方

1 対話による新たな価値の創造－協働－

豊岡市に本当の意味での協働が動き始めています。

豊岡市の将来を担う人材を育成することを目的にした「稽古堂塾」では、金融、旅館、介護、農業関係など幅広い分野から人材が集い、政策・ビジネスプランづくりやマーケティング戦略、マネジメントなどの講義、演習などを通じて、官民を越えたネットワークづくりを行っています。

また、豊岡観光イノベーションは、地域の関係者の力が結集した観光まちづくりを行う新しい組織体ともいえます。他にも、手段が有効かどうかを市民目線で納得のいく議論をしてもらう政策改善の取り組みや、靴産業の担い手を育て、豊岡ブランドの定着を図るため、豊岡靴専門店や靴づくり専門学校など、靴を核とした活性化の拠点をも一民間団体と市で意見を出し合い、プロデュースしたトヨオカカバンアルチザンアベニューなど、新たな価値の創造が広がっています。

このように、民間団体と行政がまちづくりプロジェクトの構成員として、それぞれが役割を担い、これまでにない新たな地域の価値を創造していきます。

【審議会】

：民間の人をつなぐ、商工業の方向性を議論する場、市民と市役所のつながり

2 施策の戦略的推進

小さな世界都市の実現に向け、戦略的に進める政策を「市政経営方針」に示し、4年ごとに更新します。

第6章 市民の暮らしを支える政策

この基本構想は、豊岡市の長期目標に向けて進んでいくにあたり、大きな社会の変化や課題に適応し、対策をするために重点的な政策に取り組むこととしています。

あわせて、市政は総合的に行うべきものであることを踏まえ、市民の暮らしを支える政策を市のすべて政策と位置付け、政策の柱を以下のとおり推進します。

市民の暮らしを支える政策

- 1 安全・安心した暮らしを支える
- 2 自然と調和した暮らしを支える
- 3 持続可能な暮らしを支える
- 4 地域を担う人を育てる
- 5 生きがいのある暮らしを支える

【審議会】

- ・安全・安心、地域を見守る、安心して暮らせる
- ・つながり、支えあい、助け合い、地域を支える女性と高齢者

【高校生WS】

- ・高齢者が暮らしやすいまち、医療の充実

【市民アンケート】

- ・安心して暮らせる地域社会の構築、介護保険制度の充実、社会保障の適正実施